

クロマグロ小型魚の混獲*対策に係る技術開発

現在、太平洋クロマグロは絶滅の危機にあるとされており、国際合意に基づく漁獲規制により、国内のクロマグロ小型魚（体重 30 kg 未満）の漁獲上限は従前の約半分に減らされています。しかし、京都の定置網漁では本年 2 月にまとまった漁獲が続き、漁獲上限を超えてしまいました。

定置網はその特性上、クロマグロ小型魚だけを逃がすことが難しく、獲りすぎないようにするためには、一緒に獲れるブリやアジなどとの獲り分けや魚体を傷つけないリリースなどの混獲対策技術の開発が急務となっています。

そこで、6 月 19～23 日に青森県深浦市の定置網において実施されたクロマグロ小型魚の混獲対策実験にオブザーバー参加しました。実験では、クロマグロの網内の行動調査やクロマグロ小型魚を生きのまま選別し、健全な状態で網外へ放流するための漁具構造や操業方法の改良など非常に有益な知見が得られました。一方で、アジやイワシなどクロマグロ小型魚より小さな魚も多く獲る京都では、網の目合いや獲り分け方法などは更に検討する必要性がありました。

今回得られた知見などを参考に、今後、京都府の定置網漁に適したクロマグロ混獲対策技術の開発に取り組み、保護と漁業生産を両立できるよう研究を進めます。

※ 混獲：獲りたい魚以外の魚が獲れてしまうこと。



クロマグロ小型魚に標識をつけて放流し行動を調べる